

令和4年12月22日

令和4年度
プロジェクト業務報告書
図書館・学生インターンシップ

名古屋女子大学 健康科学部健康栄養学科4年

1. 背景

図書館・学生インターンシップの就業では、通常の図書館での業務に加えて学生が主体となって様々な観点から図書館をよりよくするプロジェクト業務を行った。月に一回、当日の就業者が集まって企画会議を行った。普段図書館を利用しているうえでの気づきや昨年度を通して業務をしてきたうえでの改善点を討論し、業務課題をまとめた。それらの業務課題をインターン業務の中で実行し、課題解決に向けて尽力した。

2. プロジェクト業務

企画会議では、取り組むべき業務課題を話し合い、挙げられた課題から①利用者サービス、②展示・広報、③配架・サインの3つの項目で分かれて活動をした。以下は、各々で実際に行ったプロジェクト業務の内容である。

① 利用者サービス

<業務内容>

・昨年度アンケートの結果公開

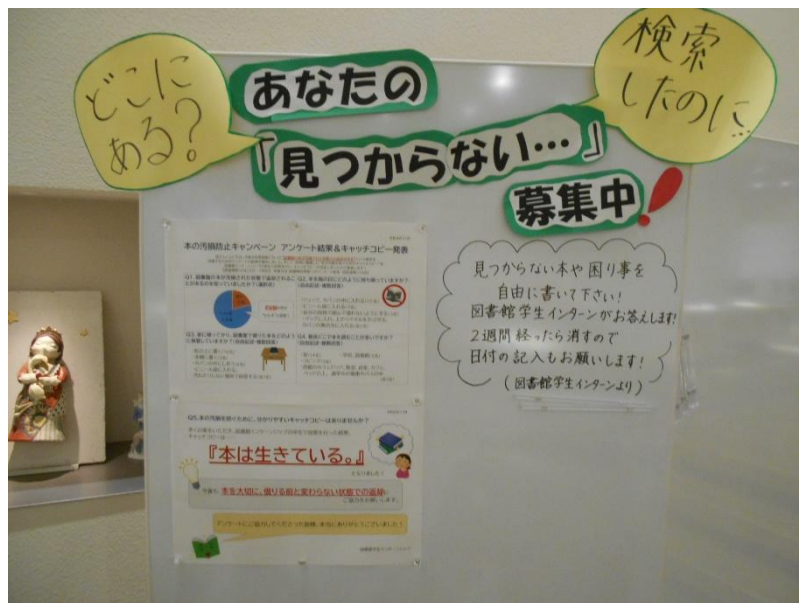
昨年度に行ったアンケート結果のポスターを作成し、館内ホワイトボードに掲示した。

・「見つからなかった本」の調べ方を案内する持ち帰り自由のフリーペーパー作成

昨年度アンケートの質問項目の一つである、「どんな本が見つからなかったですか？」で寄せられた本のジャンルの調べ方を案内するフリーペーパーを作成し、館内に設置した。

・「資料汚損防止キャンペーン」のアンケート作成、実施、結果公開

梅雨の時期に差し掛かると、本が汚損された状態で返却されることが増えることに着目し、利用者が普段図書館で借りた本をどのようにして持ち帰るかなどの現状把握、そして本の汚損を防ぐためのキャッチコピーを募集するためのアンケート調査を行った。アンケート結果と決定したキャッチコピーを紹介したポスターを作成・掲示し、資料の汚損防止に向けて注意喚起をした。



② 展示・広報

<業務内容>

- ・学部別おすすめ資料ポスター作成、展示

学術雑誌をより多くの人に手に持ってもらえるように、学科別のおすすめ雑誌の紹介と学術雑誌コーナーへの案内を記載したポスターを作成し、展示した。



- ・学術雑誌 POP の作成、展示

学生が厳選した学術雑誌の POP を作成し、学術雑誌コーナーに展示した。

- ・ヒトハコ展示

学修参考書のヒトハコ展示を入れ替え、POP を作成・展示した。

- ・テーマ展示

<有松絞り>

愛知の伝統工芸品である「有松・鳴海絞り」にスポットを当て、歴史や技法などを紹介することで、有松・鳴海絞りの良さを感じてもらえるような展示を作った。有松・鳴海絞りについて解説している資料を紹介した。



<インド更紗>

「インド更紗」についての展示を計画している。更紗とは何か、更紗の歴史や種類について紹介した。日本の更紗も紹介し、インドと日本での違いが分かるようにした。1月に設営予定である。

<やまわきゆりこ追悼展示>

山脇百合子さんの追悼の意を込めて、「やまわきゆりこ追悼展示」を行った。山脇百合子さんの人物像や代表作品である「ぐりとぐら」の紹介、インターンシップ生の好きな作品を取り上げてPOP を作成した。

- ・図書館利用促進の広報（医療科学部）

医療科学部の学生の図書館利用促進に向けて、おすすめの資料を教員から聞き取り、ポスターを作成した。活用方法は検討中である。

③ 配架・サイン

<業務内容>

・書架整理

返本配架時に5～10分書架整理も行うことで、常に整頓された図書館づくりを心がけた。

・英語多読資料ラベル作成、貼付

英語多読資料のシリーズ別にラベルを作成して裏表紙に貼付・棚見出しを付けることで、利用者が資料を見つけやすく、そして配架時もわかりやすくなるよう工夫した。

・ラーニング・コモンズ案内マップ作成

ラーニング・コモンズのどこに何が置かれているかを案内したマップを作成した。魅力や活用法も紹介することで、ラーニング・コモンズの利用促進を目指した。

3. まとめ

私は2年間、図書館・学生インターンシップ生として図書館をよりよくするため、課題発見ならびに解決に尽力してきた。普段から図書館を利用する学生の視点に沿った意見を出せたのではないと思う。学部学科、学年が異なるインターンシップ生とともに活動してきて、自分では気づかなかった問題点を知ることにより視野が広がり、図書館改善に向けて学生一丸となって活動できたのではないと思う。前年度に引き続きプロジェクト業務を行ってきたが、本年度はさらに様々なプロジェクトが展開され、より充実していた。図書館を利用して、より快適で使いやすくなっていると感じたため、自分たちの活動にやりがいを感じることもできた。

プロジェクト業務全体を通して改善できると思った点は、活動期間についてである。通常業務を行いながらプロジェクト業務を進めていくため、進みは遅くなってしまうが、中にはかなり長引いてしまったものがあったと感じた。そのため、1つの活動に対していつまでに完了させるかを企画会議で決め、それを目標に動いていく方が効率的に進めていくことができるのではないかと考えた。短い時間で自分がやるべきことを着実に進めていくことが大切であると思った。

また、健康栄養学科の学生として、3年生の臨地実習で役立つ本や学術雑誌などを紹介したチラシを作成し、臨地実習事前事後演習などで配布すると良いのではないかと考えた。来年度のプロジェクト業務の一環として検討していただきたい。

以上